

授業科目	*診療関連技術論演習				実務家教員担当科目	○	
単位	2.	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	隅田 由加里						
授業概要	<p>人間は疾病の発症や障害によって様々な診療（検査・処置・治療）を受けます。看護師はこの診療の補助業務の実践者として、医師の指示に基づき、患者の体内にカテーテル類を挿入する、薬剤を投与する、創傷に触れるなど侵襲を伴う技術を正確に実施しなくてはなりません。さらに実施後の観察やアセスメントを通じて、提供した技術が安全に遂行されているか、患者に異変はないかなどの異常の早期発見に努める重要な役割も担います。よって本授業では、診療に関連する技術を安全に提供するための基礎的知識（目的、根拠、留意点等）を、科学的根拠をもとに修得することを目的とします。</p> <p>担当者は、実務家教員として地域の中核的基幹病院で多種多様な診療関連技術を様々な状況にある患者に提供してきた経験をもつ。</p>						
授業形態	講義と演習		授業方法	ICT（動画）とアクティブラーニング（演習、ディスカッション、グループワーク）を活用し授業を展開する。			
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>安全に診療関連技術を実践するための基本的知識を修得し、看護専門職としての責務を深めることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>安全に診療関連技術を実践するために必要となる基礎的知識（意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目）と実施前中後の観察ポイントが説明できる。（DP1-2）</li> <li>診療関連技術を実践できるかどうかの判断を、根拠をもとに思考できる。（DP2-1）</li> <li>診療関連技術の提供が患者に与える影響を、既習の知識（形態機能学、感染のリスク、フィジカルアセスメント）を活用し科学的根拠を踏まえ思考できる。（DP2-1）</li> <li>診療関連技術を安全に実践する看護実践者としての責任を自覚し、ルールを遵守した上で演習、グループワークに取り組むことができる。（DP4-1）</li> <li>安全に診療関連技術を実践するための根拠を探究する姿勢を身につけている。（DP4-2）</li> </ol>						
理想的レベル	標準レベルに加え、自身の学びと考えを論理的に科学的根拠を踏まえ記述できるとともに、診療関連技術を実践する看護専門職の責務を模索し自己形成を深めることができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合（数値）			備考			
試験	65%						
小テスト							
レポート							
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物	25%			課題、ポートフォリオ			

その他		10%		講義・演習への参加姿勢							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU11205J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
該当する看護技術の動画視聴とテキストを読む。該当する看護技術の「基礎看護学まとめノート」に取り組む。指定された看護技術の課題に関して調べ学習等を行い自身の考えを整理しポートフォリオにまとめる。										1	
授業計画											
第1回	<p>授業ガイダンス            テーマ：感染予防の技術①（2コマ連続で行う）            授業形態：講義            担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の基礎知識（「感染と免疫」の振り返りを含む）</li> <li>・感染源への対策（洗浄、消毒、滅菌）</li> <li>・感染経路への対策（滅菌物の取扱い）</li> <li>・清潔・不潔の理解</li> </ul>										
第2回	<p>授業ガイダンス            テーマ：感染予防の技術①（2コマ連続で行う：第1回と同様）            授業形態：講義            担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の基礎知識（「感染と免疫」の振り返り含む）</li> <li>・感染源への対策（洗浄、消毒、滅菌）</li> <li>・感染経路への対策（滅菌物の取扱い）</li> <li>・清潔・不潔の理解</li> </ul>										
第3回	<p>テーマ：感染予防の技術②（2コマ連続で行う）            授業形態：演習            担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滅菌物の取り出し方、渡し方</li> <li>・滅菌手袋の装着</li> </ul>										
第4回	<p>テーマ：感染予防の技術②（2コマ連続で行う：第3回と同様）            授業形態：演習</p>										

	<p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滅菌物の取り出し方、渡し方</li> <li>・滅菌手袋の装着</li> </ul>
第5回	<p>テーマ：感染予防の技術③、創傷管理技術① 救命救急処置技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防の技術②演習の振り返り（グループワーク）</li> <li>・創傷管理の基礎知識（「形態機能学【皮膚】の振り返りを含む）</li> <li>・創傷の処置（ドレッシング剤、包帯法、創傷処置方法）</li> <li>・褥瘡の予防（褥瘡の評価、「生活援助技術論演習での【褥瘡予防】の振り返りを含む）</li> <li>・救命救急処置の意義と目的</li> <li>・救急蘇生法</li> <li>・止血法</li> </ul>
第6回	<p>テーマ：感染予防の技術③、創傷管理技術① 救命救急処置技術（2コマ連続で行う：第5回と同様）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防の技術②演習の振り返り（グループワーク）</li> <li>・創傷管理の基礎知識（「形態機能学【皮膚】の振り返りを含む）</li> <li>・創傷の処置（ドレッシング剤、包帯法、創傷処置方法）</li> <li>・褥瘡の予防（褥瘡の評価、「生活援助技術論演習での【褥瘡予防】の振り返りを含む）</li> <li>・救命救急処置の意義と目的</li> <li>・救急蘇生法</li> <li>・止血法</li> </ul>
第7回	<p>テーマ：創傷管理技術② 栄養摂取の援助技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創傷の観察と創傷感染リスクのアセスメント（グループワーク）</li> <li>・中心静脈栄養、末梢静脈栄養（「形態機能学【血管】の振り返りを含む）</li> </ul>
第8回	<p>テーマ：創傷管理技術② 栄養摂取の援助技術①（2コマ連続で行う：第7回と同様）</p> <p>授業形態：講義</p>

	<p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創傷の観察と創傷感染リスクのアセスメント（グループワーク）</li> <li>・ 中心静脈栄養、末梢静脈栄養（「形態機能学【血管】の振り返りを含む）</li> </ul>
第9回	<p>テーマ：栄養摂取の援助技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経腸栄養（「形態機能学【消化器系】の振り返りを含む）</li> <li>・ 経鼻経管栄養法のリスク理解（グループワーク）</li> </ul>
第10回	<p>テーマ：栄養摂取の援助技術②（2コマ連続で行う：第9回と同様）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経腸栄養（「形態機能学【消化器系】の振り返りを含む）</li> <li>・ 経鼻経管栄養法のリスク理解（グループワーク）</li> </ul>
第11回	<p>テーマ：排泄の援助技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浣腸と排便（「形態機能学【消化器系】の振り返りを含む）</li> <li>・ 一時的導尿と持続的導尿（「形態機能学【泌尿器系】の振り返りを含む）</li> </ul>
第12回	<p>テーマ：排泄の援助技術①（2コマ連続で行う：第11回と同様）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浣腸と排便（「形態機能学【消化器系】の振り返りを含む）</li> <li>・ 一時的導尿と持続的導尿（「形態機能学【泌尿器系】の振り返りを含む）</li> </ul>
第13回	<p>テーマ：排泄の援助技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時的導尿</li> </ul>

第14回	<p>テーマ：排泄の援助技術②（2コマ連続で行う：第13回と同様）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的導尿</li> </ul>
第15回	<p>テーマ：排泄の援助技術③、呼吸・循環を整える技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄の援助技術②演習の振り返り（グループワーク）</li> <li>・持続的導尿を実施している患者の観察とリスクアセスメント（グループワーク）</li> <li>・呼吸の意義とアセスメント（「形態機能学【呼吸器系】の振り返りを含む）</li> <li>・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法</li> <li>・気道分泌物の排出の援助</li> <li>・酸素吸入療法</li> </ul>
第16回	<p>テーマ：排泄の援助技術③、呼吸・循環を整える技術①（2コマ連続で行う：第15回と同様）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄の援助技術②演習の振り返り（グループワーク）</li> <li>・持続的導尿を実施している患者の観察とリスクアセスメント（グループワーク）</li> <li>・呼吸の意義とアセスメント（「形態機能学【呼吸器系】の振り返りを含む）</li> <li>・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法</li> <li>・気道分泌物の排出の援助</li> <li>・酸素吸入療法</li> </ul>
第17回	<p>テーマ：呼吸・循環を整える技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素吸入</li> <li>・鼻腔内吸引</li> </ul>
第18回	<p>テーマ：呼吸・循環を整える技術②（2コマ連続で行う：第17回と同様）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p>

	<p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸素吸入</li> <li>・ 鼻腔内吸引</li> </ul>
第 19 回	<p>テーマ：呼吸・循環を整える技術③</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 呼吸・循環を整える技術②演習の振り返り（グループワーク）</li> <li>・ 呼吸を整える援助を実施している患者の観察とリスクアセスメント（グループワーク）</li> <li>・ 保温の援助</li> </ul>
第 20 回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術①</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 与薬に関する基礎知識（薬理学の想起が必要）</li> <li>・ 経口与薬法</li> </ul>
第 21 回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外用薬の皮膚・粘膜適応</li> <li>・ 注射法</li> <li>・ 輸血療法</li> </ul>
第 22 回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術②（2コマ連続で行う：第 21 回と同様）</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外用薬の皮膚・粘膜適応</li> <li>・ 注射法</li> <li>・ 輸血療法</li> </ul>
第 23 回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術③</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p>

	・演習：点滴内静脈注射（点滴の準備と滴下調整）
第24回	<p>テーマ：検査に伴う看護技術①</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査に伴う看護師の役割、血液検査（静脈血採血）</li> </ul>
第25回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術④（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮下注射と筋肉内注射（注射の準備と投与）</li> </ul>
第26回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術④（2コマ連続で行う：第25回と同様）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮下注射と筋肉内注射（注射の準備と投与）</li> </ul>
第27回	<p>テーマ：検査に伴う看護技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈血採血</li> </ul>
第28回	<p>テーマ：検査に伴う看護技術②（2コマ連続で行う：第27回と同様）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田由加里、基礎看護学教員</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈血採血</li> </ul>
第29回	<p>テーマ：与薬・輸血の技術⑤</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与薬・輸血の技術③演習の振り返り（グループワーク）</li> <li>・与薬を実施している患者の観察とリスクアセスメント（グループワーク）</li> </ul>

第30回	<p>テーマ：診療関連技術論演習のまとめ</p> <p>授業形態：講義</p> <p>担当：隅田由加里</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例から「診療の補助」を行う看護師の責務を思考する（グループワーク）</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院）</li> <li>・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）</li> </ul>
参考図書・教材/データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系看護学全書 基礎看護学②～④ 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、臨床看護総論（メジカルフレンド社）</li> <li>・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術（メディカ出版）</li> <li>・系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学（医学書院）</li> <li>・深井喜代子編著：基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる（照林社）</li> <li>・深井喜代子監修：ケア技術のエビデンス（1）（2）実践へのフィードバックで活かす（へるす出版）</li> <li>・藤本真記子ら監修：看護技術がみえる① 基礎看護技術（メディックメディア）</li> <li>・佐藤久美ら監修：看護技術がみえる② 臨床看護技術（メディックメディア）</li> <li>・山口瑞穂子編著：看護技術 講義・演習ノート 第2版 下巻 診療に伴う看護技術編（サイオ出版）</li> <li>・任和子ら編集：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版（医学書院）</li> <li>・公益財団法人日本医療機能評価機構 <a href="https://www.med-safe.jp">https://www.med-safe.jp</a></li> <li>・PMDA 独立行政法人 医薬品医療機器総合情報 <a href="https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medical-safety-info">https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medical-safety-info</a></li> </ul>
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題のフィードバックは授業内で行う。</p> <p>定期試験のフィードバックは成績発表後に Google クラウドルームを活用して行う。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>医療は日々進歩し新しい治療法が開発されています。そのような中、臨床現場では看護師は医師の代行者として様々な診療に関連する看護技術を提供しています。しかし皆さんのような初学者の方が、初めて診療関連技術を演習するのはとても難しく、また怖さを感じると思います。このためどうしても技術手順の習得に意識が集中しがちです。しかし診療関連技術を提供するにあたって最も大切なことは、患者の安全を守ることです。この患者の安全を死守するためには、手順だけでなく、「なぜそれを行うのか」という目的や根拠、理由をしっかりと理解することが必要です。その知識が医療事故や感染などのリスクから患者を、そして自分自身を守ってくれます。</p> <p>よって、以下のポイントを活用して学習を進めてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「どうしてこれを行うの?」「なぜ、この方法なの?」等の疑問をもち、その疑問を解決（根拠を理解）しながら学びを深めてください。</li> </ol>



2. 診療関連技術は患者の体内に針やカテーテルを挿入し、さらに薬物や酸素を投与するなど患者に侵襲を与える看護技術でもあります。これらを安全に実践するためには、1年次から2年次にかけて学修した既習の知識（「形態機能学」「感染と免疫」「生活援助技術論演習」「疾病学各論」「薬理学」）の想起が必要となります。特に重要な復習ポイントは「授業計画」内に記載していますので、復習（振り返り）を必ず行い、その振り返りはポートフォリオにまとめ、授業に参加してください。

3. 「診療」は事故のリスクを伴います。そのため各診療関連技術に関して「医療事故」の視点を持ち、その防止対策を思考していきましょう。

4. 「診療」は感染のリスクを伴います。そのため各診療関連技術に関して「清潔と不潔」を常に意識して学びを深めましょう。

6. 診療関連技術論での学びを、後期からの「看護のための臨床検査」「各領域の方法論」などの科目と関連させることでより理解が進みますので、後期もこの学びを活用して継続的に学修を深めてください。